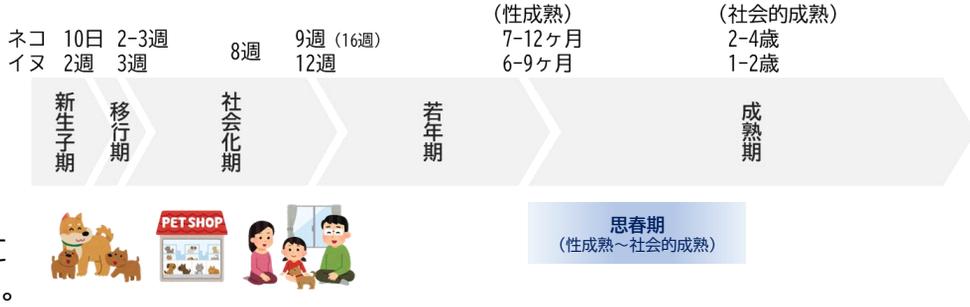


# イヌ、ネコも思春期は大変?! 発達による行動変化を追跡しよう

久世 明香（動物臨床行動学）、今野晃嗣（動物社会認知科学）  
茂木 一孝（動物社会神経科学）、菊水 健史（集団内分泌）、  
永澤 美保（同調的共生）

## 研究の背景

イヌやネコの1歳は、ヒトに換算すると何歳でしょう？  
ネコであればヒトの18歳、  
小型～中型犬であれば15歳に相当すると考えられています。



ヒトと比べて短期間に急速に発達するイヌやネコですが、成長の過程で手を焼くことも少なくありません。イヌでは、6-9ヶ月齢頃が思春期に相当し、自己主張が強くなったり、攻撃性が出たり、オスらしいあるいはメスらしい行動が見られるようになることが知られています。

発達過程にあるイヌやネコにどのような環境を提供し、困る行動に対してどのように対応するのがよいのでしょうか？

## アプローチ

対象：一般家庭で飼育を開始したイヌおよびネコ

研究デザイン：コホート研究（追跡調査）

調査方法：アンケート

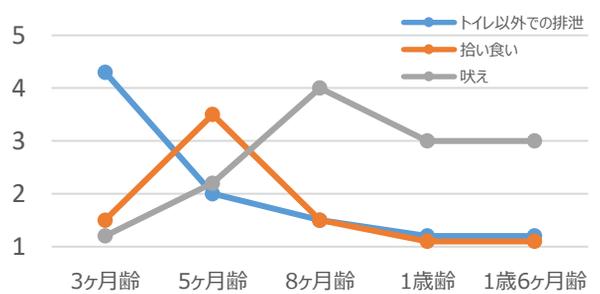
調査内容：動物の一般情報、社会化経験、  
飼育環境、困る行動、対応方法、相談先



## 期待される結果

- ・ 幼齢期-思春期-成熟期にかけての行動変化を明らかにします
- ・ 発達ステージによって起こりやすい困る行動を検出します
- ・ 動物種、品種、飼育環境、飼い主の対応が、行動変化にどのような影響を与えるのかを考察します
- ・ データ解析技術が身に付きます

(イメージ図) イヌの困る行動の変化



## 募集方法

- ・ 募集人数：2名～4名

プロジェクトメンバーの一員として責任感を持ち、サンプルデータを丁寧に扱い、コツコツ取り組んでくれる方をお待ちしております！